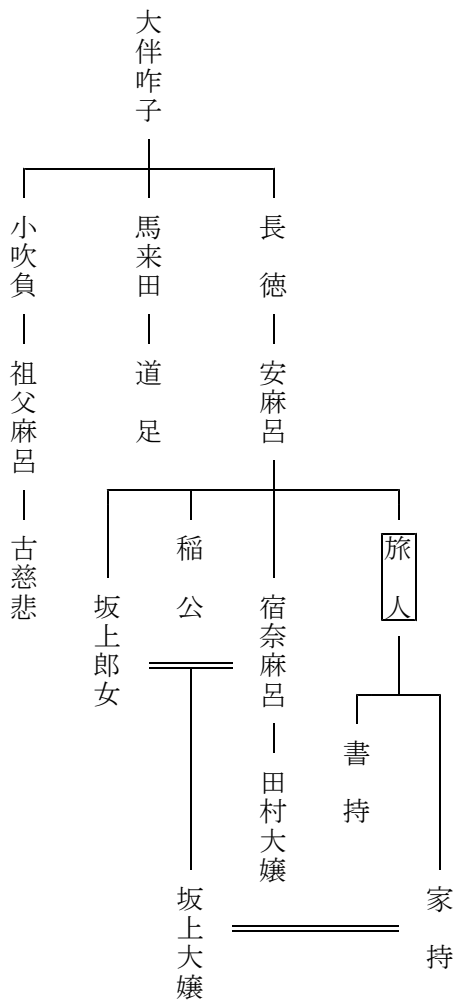


## 大伴旅人



○従二位大納言大伴宿祢旅人。一首。年六十七。(懐風藻)

## 大伴旅人年表

西暦	年号	天皇	執政	事項	年齢
六六五	天智四			大伴旅人誕生	1
七〇四	慶雲元	文武	石上		40
七〇五					41
七〇六					42
七〇七					43
七〇八	和銅元	元明	麻呂	大伴安麻呂、大納言。兼帥	44
七〇九				(柿本人麻呂、この頃没か)	45
七一〇				正五位上大伴旅人、左將軍。(平城京に遷都)	46
七一一			藤原	大伴旅人、従四位下叙位	47
七一二			不比等	(古事記撰進)	48
七一三					49
七一四					50
七一五	靈龜元			大伴旅人、従四位上叙位。中務卿任官	51
七一六		元正			52



天平二年庚午冬十二月、大宰帥大伴卿、京に向ひて上道する時、作る歌五首

(そのうち三首)

⑤ 吾妹子が見し鞆の浦のむろの木は常世にあれど見し人そなき(三・四四六)

⑥ 磯の上に根這ふむろの木見し人をいづらと問はば語り告げむか(四四八)

右の三首(そのうち二首)は、鞆の浦を過ぐる日作る歌。

⑦ 妹と来し敏馬の崎を還るさに独りして見れば涙ぐましも(四四九)

右の二首(そのうち一首)は、敏馬の崎を過ぐる日作る歌。

故郷の家に還り入りて、即ち作る歌三首(そのうち二首)

⑧ 人もなき空しき家は草枕旅にまさりて苦しかりけり(四五一)

⑨ 吾妹子が植ゑし梅の樹見ることこころ咽せつつ涙し流る(四五三)

帥大伴卿の歌五首(そのうち三首)

⑩ わが盛また変若めやもほとほとに寧樂の京を見ずかなりなむ(三・三三一)

⑪ わが命も常にあらぬか昔見し象の小川を行きて見むため(三三二)

⑫ わすれ草わが紐に付く香具山の故りにし里を忘れむがため(三三四)

大宰帥大伴卿の冬の日に見て京を憶ふ歌一首

⑬ 沫雪のほどろほどろに降り敷けば平城の京し思ほゆるかも(八・一六三九)

大宰帥大伴卿、酒を讃むる歌十三首

⑭ 駢なき物を思はずは一坏の濁れる酒を飲むべくあるらし(三・三三八)

⑮ 酒の名を聖と負せし古の大き聖の言のよろしき(三・三三九)

⑯ 古の七の賢しき人たちも欲りせしものは酒にしあるらし(三・三四〇)

⑰ 賢しき物いふよりは酒飲みて酔泣するしまさりてあるらし(三・三四一)

⑱ 言はむ為便せむ為便知らず極りて貴きものは酒にしあるらし(三・三四二)

⑲ なかなか人にとあらずは酒壺に成りにてしかも酒に染みなむ(三・三四三)

⑳ あな醜賢しらをすと酒飲まぬ人をよく見ば猿にかも似む(三・三四四)

㉑ 価無き宝といふとも一坏の濁れる酒にあに益さめやも(三・三四五)

㉒ 夜光る玉といふとも酒飲みて情をやるにあに若かめやも(三・三四六)

㉓ 世のなかの遊びの道にたのしきは酔泣するにあるべくあるらし(三・三四七)

㉔ 今の世にし楽しくあらば来む生には虫に鳥にもわれはなりなむ(三・三四八)

㉕ 生者つひにも死ぬるものにあれば今の世なる間は楽しくをあらな(三・三四九)

㉖ 黙然をりて賢しらするは酒飲みて酔泣するになほ若かずけり(三・三五〇)

神龜五年（天平元年）の公卿

神龜五年（七二八）夏頃

知太政官事 一品 舍人親王

左大臣 正二位 長屋王 45？

右大臣 (欠員)

大納言 從二位 多治比池守 (神龜二年、靈寿杖を賜る)

中納言 正三位 大伴旅人 64 (任官後11年目)。夏までに兼大宰帥

正三位 藤原武智麻呂 49 (任官後8年目)

從三位 阿倍広庭 70

正三位 藤原房前 48

非參議 從三位 藤原宇合 35 式部卿

天平元年（七二九）三月四日現在（長屋王の自殺は二月一二日）

知太政官事 一品 舍人親王

左大臣 (欠員)

右大臣 (欠員) 從二位 多治比池守 (天平二年九月八日、薨)

大納言 正三位 藤原武智麻呂 50 三月四日、任大納言

中納言 正三位 大伴旅人 65 兼大宰帥

從三位 阿倍広庭 71

參議 正三位 藤原房前 49 (九月二八日、任中務卿)

權參議 從三位 多治比県守 62 大宰大貳。二月一日、任權參議。三月四日、

從三位

從三位 石川石足 63 左大弁。二月一日、任權參議。三月四日、從

三位 (八月九日、薨)

彈正尹。二月一日、任權參議。三月四日、正

四位下。(九月二八日、任右大弁)

式部卿

從三位 藤原宇合 36 京職大夫。三月四日、從三位

從三位 藤原麻呂 35

非參議